

評価結果概要版



令和2年度

通所介護【デイサービス】

利用者調査とサービス項目を中心とした評価手法

法人名称	社会福祉法人同胞互助会
事業所名称	昭島市高齢者在宅サービスセンター愛全園
事業所所在地	東京都昭島市田中町2丁目25番3号
事業所電話番号	042-545-8011

事業者の理念・方針

理念・方針	
事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）	<p>法人の理念 『老いの装い支援』 私たちは、老いても快適にいきいきとした美しを保てるよう、高齢者の装いを支援します。</p> <p>私たちが大切にしている行動指針</p> <ol style="list-style-type: none">1. 人権と尊厳の尊重2. 個別の介護・医療サービス3. 真実の瞬間の重視4. 精鋭のプロ集団5. 開かれた福祉拠点

全体の評価講評

特に良いと思う点

- ・広いスペースを活用し機能訓練に力を入れ、二重課題に取り組むことで認知機能低下にも繋げている。

施設では、1周40メートルの広いスペースを活用して機能訓練に力を入れている。等尺性膝伸展筋力（ふとももの筋肉量）を定期的に測定し、機能訓練の評価に活かしている。測定結果はレーダーチャートに反映し体力の推移が見える化し、今後のプログラムに活かしている。また、低床のリハビリ用自転車を設置しモニターを見ながら問題に答える二重課題に取り組めるようにし、認知機能低下にも考慮した機能訓練プログラムになっている。自ら取り組むことも大切に考え、名札の裏に個別のプログラムを明記する工夫も行っている。

- ・毎日栄養士が食事について伝え、しっかりと食べることに力を入れて支援をしている

施設では快眠・快食・快便・快感を呼び起こすケアを目標にしており、食事をしっかりとることも大事に支援をしている。朝食をとらずに通所することもあるので、大豆由来の栄養ドリンクを用意・提供し、空腹の状態で活動することを避ける取り組みをしている。また、栄養士による食に関する話を毎日行うなど、利用者に対し多方面から食事を摂ることの大切さを伝えている。食事は厨房で手作りされており、天然の食材を使用し栄養バランスにも考慮し、嚥下機能が低下している利用者には刻み食に代わる凍結含浸食を提供している。

- ・タブレットやインカムの活用で瞬時に情報共有できる取り組みを行っている

施設では利用者情報を全職員で共有する取り組みとしてタブレットやインカムを活用している。施設は1階、2階とフロアがわかれており、スペースが広いので職員間の連携が回りにくい部分もあったが、インカム（マイク付きイヤホン）を職員が装着して支援に行くことで、利用者が急変したり急ぎで伝えたい時などに瞬時に情報を提供したり協力を要請することが出来ている。また、タブレットは口頭で入力を行うことが出来るため、すぐに入力が可能で、利用者状態を各職員がどこにいても確認することが出来る取り組みとなっている。

さらなる改善が望まれる点

- ・家族や関係機関と連携することで、より個別化した支援が期待される

施設ではケアプランの内容を基に「個別通所計画書」を作成している。計画書は利用者の疾病や認知症状、身体機能などに基づき生活相談員が作成しているが、日中の限られた通所中の過ごし方に対しての内容となっている。今後は通所中の活動が日常生活にどのような効果があるかなどを家族や関係機関と共有し、通所時間以外の過ごし方なども提案し、多職種で連携を図りながら支援ができるような取組みを行うことで、より個別化した計画書の作成や支援が期待される。

・利用者一人一人の意向に沿った空間や居場所作りを行い、落ち着いて過ごせる環境を作ることが期待される

施設は1階、2階のフロアがあり1周40メートルとかなり広いスペースとなっており、自ら歩行訓練を行うなど活動量の確保にもつながっている。しかし、スペースが広いと、落ち着いて日中を過ごす場所の確保ができにくい状況になっている。静養室を確保し読書ができるように環境整備を行っているが、口腔ケアを行う場所と併用になっており、ゆっくりと心から落ち着いて過ごすことができにくくなっている。今後は利用者の意向に沿って意見を出し合い、利用者一人一人が落ち着いて過ごせる空間や居場所作りが期待される。

・

事業者が特に力を入れている取り組み

・特別養護老人ホーム併設の診療所があり医療が近くにあることで安心感を与えている

併設の特別養護老人ホームに診療所があり常勤医師がいることにより、医師がそばにいる安心感と最新の医療情報が入手することが出来、コロナ禍でも安心して通所することができる施設となっている。そのため、がん末期や胃瘻造設の利用者など医療的リスクがある場合も利用者本人の身体的負担にならない範囲で受け入れを行っている。入浴設備も通所施設では珍しいストレッチャー浴が可能となっており、自宅での入浴や他の施設では対応できない利用者の清潔保持にも活用されている。

・4つの視点（機能訓練・口腔ケア・栄養評価・レクリエーション）で支援を行っている

機能訓練、口腔ケア、栄養評価、レクリエーション活動の4つの視点のサービスを総合的にプロデュースすることを大切に考え支援している。一つの視点に特化したものではなく、利用者の生活において4つの視点のつながりを意識してプログラムづくりに取り組んでいる。『骨を強くするための歩行』『便秘にならないための水分』『病気になるための口』を目指し、全ての活動はつながりがあるとの意識で支援し二重課題を取り入れた機能訓練や大豆由来の栄養ドリンクをの摂取などで、より効果的に心身共に健康な身体を作り、努め認知症予防も図っている。

・家族会があり、親睦会などで連携を図っている

施設では通所介護では珍しく家族会があり多くの利用者家族が参加している。昨年まではフリーマーケットを行い、その収益で親睦会や勉強会などを開催し、職員や利用者も一緒に参加するなど毎日の介護が続く中で、楽しみの一つとなってきた。コロナ禍となり、開催が難しくなっているが、感染防止のため人との接触が制限されることで介護の孤立化が懸念されている。オンラインでの開催や人数制限を行うなどで家族会の活動を継続し、利用者のみならず家族のための施設としての役割が持てることを期待している。

利用者調査結果

有効回答者数/利用者総数

56/81

はい どちらともいえない いいえ 無回答・非該当

1. 利用時の過ごし方は、個人のペースに合っているか	83.0%	10.0%			いいえ：1.0% 無回答・非該当：3.0%
2. 日常生活に必要な介助を受けているか	76.0%	5.0%	10.0%	7.0%	
3. 利用中に興味・関心が持てる行事や活動があるか	58.0%	26.0%	14.0%		無回答・非該当：0.0%
4. 個別の計画に基づいた事業所での活動・機能訓練（体操や運動など）は、在宅生活の継続に役立つか	92.0%				どちらともいえない：3.0% いいえ：1.0% 無回答・非該当：1.0%
5. 職員から適切な情報提供・アドバイスを受けているか	80.0%	17.0%			いいえ：1.0% 無回答・非該当：0.0%
6. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	91.0%				どちらともいえない：3.0% いいえ：3.0% 無回答・非該当：1.0%
7. 職員の接遇・態度は適切か	91.0%		5.0%		いいえ：1.0% 無回答・非該当：1.0%
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	76.0%	12.0%	10.0%		いいえ：0.0%
9. 利用者同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	73.0%	10.0%	16.0%		いいえ：0.0%
10. 利用者の気持ちを尊重した対応がされているか	92.0%		5.0%		いいえ：0.0% 無回答・非該当：1.0%
11. 利用者のプライバシーは守られているか	94.0%				どちらともいえない：3.0% いいえ：0.0% 無回答・非該当：1.0%
12. 個別の計画作成時に、利用者や家族の状況や要望を聞かれているか	80.0%	12.0%	5.0%		無回答・非該当：1.0%
13. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	85.0%	7.0%	5.0%		無回答・非該当：1.0%
14. 利用者の不満や要望は対応されているか	80.0%	8.0%	8.0%		いいえ：1.0%
15. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	51.0%	26.0%	17.0%		いいえ：3.0%